

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	本当に自分の家族だったら・・・という思いを常に持ち、利用者に対する処遇を考えるよう指導している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	「ホームは忙しく交流は難しい」・・・と思われていたようだが、掃除等に参加するようになり、地域の人たちも多少意識が変わってきたように感じられる。今後も地域との交流を図って生きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受け改善すべき所は運営者、管理者、職員で話し合い改善に取り組んでいます。		今年、未経験者二人を職員として採用している今回再度全スタッフに評価の意義と理解を深めるよう話し合ってます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上の為各々意見を受け止め向上していけるよう努力していきたいと思います。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケースワーカーさんとの連携は図っているが、他職員とは取り組んでいない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や日常生活自立支援事業の研修に参加し、研修内容やパンフレット等を必ず他の介護スタッフに説明している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加後資料を配布し説明をして理解できるよう話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には十分説明を行い解らない事があれば遠慮なく質問していただき納得して契約していただくようにしています。</p>	<p>契約後に訊ねたいことも多々出てくる事もあると思ひ契約後でも疑問に思ったり、聞き忘れが有る場合はいつでも聞いてくださいと伝えている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関の面会簿の横に意見箱を設置している。意見が有る場合は入れていただくよう説明している。</p>	<p>他の利用者の前では話しにくいこともあると思ひ時々居室訪問して話しやすい状況を作り不満や意見がないか訊ねている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族等が面会や支払に来られた際近況報告を必ずしています。年間行事やレクリエーションに参加された時に撮った写真等を見ていただきその時の状況も一緒に説明しています。金銭管理に関しては請求書を発送する際に明細書を毎月一緒に同封しています。職員の異動、退職も報告しています。</p>	<p>緊急時はその都度電話連絡をしています。今後もホームでの暮らしぶり等報告を行い家族との連絡を密にしています。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関の面会簿横に意見箱を設置している。</p>	<p>家族の方には不満や意見相談事がある場合はいつでも連絡して頂く様に伝えている。又介護スタッフには管理者不在時でも連絡が直ぐ取れることを伝えるよう指示している。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングやカンファレンス等の場で各個人の意見を尊重している。一人だけの意見に止まらず総合的な意見を聞いてより良い介護ができるようにしている。</p>	<p>スタッフが意見を出しやすい状況を作るようにしている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様、ご家族の要望にはスタッフも惜しまず協力をしてくれる為柔軟な対応ができています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホームとしても馴染みの関係を断ち切らないよう努力しています。</p>	<p>利用者様に限らず家族様もスタッフの顔は覚え信頼を寄せていらっしゃる為異動や離職は最小限に止めるようにしています。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○人権の尊重	ハローワークに求人を出す際、性別・年齢等不問にしている。又職員に対しても勤務表作成前に希望休日を出してもらい仕事、プライベートが充実できるよう配慮している。		未経験者の方も採用し介護に対して意欲的な人材を育てたい。
	法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			
20	○人権教育・啓発活動	スタッフには入居者一人一人の人生暦の把握をするように伝え日常の勤務の中で人権に対しての考え方を口頭で伝えている。		研修で得た資料をミーティングの際発表しスタッフ全員が熟読するよう指示している。
	法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。			
21	○職員を育てる取り組み	個々の能力不足を補える研修や新任研修等積極的に参加するよう勧めている。		研修計画書を作成。県社協主宰の介護実習等参加を進めてスタッフの育成に努めている。
	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
22	○同業者との交流を通じた向上	近隣の通所介護、介護老人福祉施設、グループホームへ訪問したり相互の草取り、門松作り、おやつを作って持っていったり等多様な面で交流している。		
	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み	こちらから話しかけ、ねぎらいの言葉をかけ気軽に話ができる雰囲気を作っている。		
	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる			
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み	勤務態度を見極め指導をしていく上でその個人に合った話し方、内容を考え接している。		運営者としての資質を高める為、共に成長していく！！ではなく一歩前に行くように勉強して行きたい。
	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人様にはご自身の思いや日常生活での不安等を昼夜を問わず伺い不安解消に努め信頼できるよう努めています。	今まで住み慣れた場所から離れて生活していく上で色々不安に思われることは当然です。その都度本人様が納得されるまで説明行い傾聴するようにしています。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	グループホームを見学して頂きその際現在どのような事に困惑されているのか、どういう生活を望まれているのかを伺っています。一度の見学では全てを伝える事は困難と思われる為何度でも納得いくまで見学や相談に来ていただくよう声掛けしています。	話し合いをする機会を多く持ち家族との信頼関係を築いていくようにしています。
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族が必要とされているサービスがどのような事なのか伺いグループホームに入居されることが最良のサービスなのか他のサービスを選択された方が良いかを一緒に考えるようにしています。	施設サービス、在宅サービスの特徴を説明して、本人様・家族様がより良いサービスの提供が受けられるよう支援しています。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人様・家族様に当ホームの雰囲気や職員の対応などを実際に見ていただき生活上の不安や質問に対応しています。	他の利用者様が当ホームでどのような生活を送られているのか、理解して頂く為にも一度の見学で決めるのではなく何度でも見学に来られるよう進めています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様に家事の手伝いをお願いすると洗濯物一つ畳むにしてもスタッフより綺麗に畳まれる事もあり本人様の性格や今までの暮らし方が窺えることもあります。作業をしている時に手早くできる方法等教えてもらったりと楽しみながら一緒に過ごす事が出来ています。	
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や遠方の方には電話をして近況報告をしています。行事に参加された時の様子等は各個人の写真を一緒に見ながらその時の様子等説明しています。又急変時や今後も介護の方法を変更する時も連絡をして一緒により良い方向へ支援できるよう話し合っています。	外出(花見や土筆採り等)したときの写真を見られて「いい笑顔をして楽しかったんでしょうね」と喜ばれます。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの家族の形、親子の関係・夫婦関係も皆様違う為管理者、介護スタッフ全員が関係の理解に努め双方が理解しあえる関係が築けるよう支援しています。	
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の意欲の低下に繋がらないよう入居時のアセスメントや初期の相談時に懇意にされていた場所や継続を希望される事は伺います。ホームの支援やインフォーマルな支援で可能な場合は継続できるようにしています。	以前入居時前から利用されていたリハビリ病院継続の希望があり送迎は病院がされているとの情報を得て病院側に自宅ではなくホームにも送迎可能かどうか、お一人を病院に預ける事は可能か等相談。話し合いの結果継続可能となる。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各々個性を持っていらっしゃるので考え方の違いでトラブルになる事もあります。喧嘩する仲間がいるから張り合いが出るということもあると思います。スタッフは中立性を保ちながらお互いの訴えをよく聴き相手の思い等を伝えお互いが理解しあえるよう努めています。	
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も本人様・ご家族様にはいつでも立ち寄って頂く様お伝えし又ご家族が介護に関して不安を持たれるような事があれば遠慮なく相談してくださいと声掛けしている。	自宅での生活が可能(介護計画でも目標を在宅復帰としていた)となり5ヶ月程で退所されたが、退去時にご家族から「いつまで自宅で見る事ができるか分かりませんが、不安な時は相談したい」と言う要望があり遠慮なく来て頂く様にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様・ご家族からこれまでの生活の送り方や今後の暮らし方の希望を訊ね意向に副った介護が出来るよう努めています。困難な場合は家族からの要望や本人様の表情、動作等を見て意向の把握に努めています。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に本人様・ご家族から生活歴、馴染みの暮らし方を伺い在宅時の介護サービスの利用状況等の把握に努めている	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別介護記録には本人が一日どのように過ごされているかを記入。スタッフが本人様の状態を把握してできる力を引き出せるよう努めています。	○ ただ過ごされている事を記録するのではなくスタッフは絶えず本人様の出来ること、出来ない事等気づきや発見をして本人様を知る努力が必要。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	モニタリング後にスタッフ等とミーティングを行いサービス担当者会議を開催して介護計画を作成するようにしています。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院後の心身の状態変化時や機能低下による状態の変化、目標達成等あれば見直し以前に新たな介護計画を作成しています。	入院中は度々病院を訪れ本人様の状態を主治医、看護師に訊ね退院日近くでご家族、主治医と共に今の状態、今後のケアについて話し合いを行っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の状態は誰が見ても分かるよう記録に記入している。朝のミーティング、モニタリング等で情報を共有しながら介護計画の見直しをしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・ご家族の要望に応じて受診、買い物、理・美容院、自宅への送迎等ホーム車で支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ケースワーカーとは絶えず連絡を取り合い本人様が安心して日常生活を送れるよう支援しています。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在活用していません。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在活用する対象者がいない為活用していません。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をして本人・ご家族様の要望を聞き本人様が信頼されている病院へ受診の継続ができるようにしています。入居後はかかりつけ医にホーム入居された事を連絡し連携を保つ事ができるようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	病状によって掛かり付け医・家族に相談し認知症専門医へ受診の相談をして受診している。		不穏症状に対して認知症専門医に受診する事を本人様・家族様とよく話し合い不安の解消に努めながら安心して受診できるようにしている。
47 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに看護職は配置していない為、各主治医の看護師と情報を共有し支援している。		施設や病院の看護師に症状を説明し病状に応じて対処できる病院を選択するようにしている。
48 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の急変時や入院の際には必ずサマリーを作成しADLの状況、服用されている薬を説明している。入院中の連絡先はホームと家族にして頂きすぐに出向き話し合いの場ができるようにしている。		
49 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	随時電話連絡を取り時間調整をして会い家族・主治医・当ホームとが同じ方針で取り組む事ができるよう話し合っている。		
50 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在入居中の方がお一人余命半年という事が判明。主治医・家族との話し合いで、できる限りホームで暮らしていただく事になるがホームに看護師は居ない為ホームでできることを主治医・家族と話し合い急変時の対応や病状の変化の注意点などを聞いて現在支援しています。		現在入院されている方も含め家族の精神的、肉体的負担を軽減できるようホームスタッフがすることは支援しています。医療機関とも面会時に情報を得られるようにし速やかに対応できるようにしています。
51 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者・家族の方が安心できる様に看護サマリーを用意しているが、看護サマリーだけでは補えない事はケア関係者の方に連絡して直接会って話し合う又は電話をして情報交換をしています。		自宅や病院に入院された場合も安心して生活が送れるよう家族の不安や願いをお聞きしてホームでできる支援を行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の暮らしの中での言葉使いには人生の大先輩として敬い十分注意をして言葉かけをするようにしています。記録等の個人情報の取り扱いは記録簿入れに保管し事務所に置くようにして他者の目に触れたり持ち出す事ができないように配慮しています。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々個人の訴えや希望をゆっくり傾聴できるように、他者に聞かれず安心して話すことができるよう事務所内や本人様の部屋で納得されるまで話を伺うようにしています。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物やドライブ等希望された時に病院受診等で希望に副えない日もありますが、その時はいくつかの案を出して本人様を選び納得されるよう支援しています。	出来ない理由を説明して「午前中は困難なため午後からでよろしいでしょうか?」「それとも他の日で何日でしたらどうでしょうか?」等の声かけをしています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者様、ご家族の希望に応じて入居前からの馴染みの美容室、理容室を利用しています。又本人様がスタッフによる散髪を希望される場合はスタッフが散髪、顔剃り行っています。	家族からの要望で衣類や履物等購入する場合は本人様の趣味に合わせたものや理解困難な方にはスタッフ間で本人様に似合う物を話し合って購入するようにしています。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時のアセスメントで本人様の好き嫌いや誕生日には食べたい物を聞きお祝いができるようにしています。下げ膳の可能な方にはカウンターまで持ってきてもらいテーブルを拭いてもらったり農家の方から頂いたネギやニラ等の下処理をお願いしてスタッフと一緒に話しながら作業ができるように支援しています。	春先には利用者様と一緒に土筆採りに行き、参加されなかった利用者様も一緒に土筆の袴採りをして季節の物を食して頂いています。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在利用者様の中に喫煙される方はいらっしゃいません。晩酌でお酒を提供することはありませんが、新年会・忘年会・誕生会・バーベキュー会等の行事の時は提供しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ使用の方は排泄量を確認しながらオムツの使用量をできるだけ軽減しその日の体調によりトイレまで出向き排泄可能であれば誘導、介助を行っている。紙パンツ使用の方や自力排泄の方にも適宜排泄を心がけトイレへの誘導を行ってできるだけ失敗の無いように配慮している。		自力排尿されている方でも失禁がある場合等は直ぐに紙パンツ等に移行せず尿器の使用を勧めたりトイレへの移動が困難な場合はポータブルトイレを使用する等支援している。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	当ホームでは男性と女性で一日おきに入浴して頂く様にしているが、本人様が希望された時は柔軟な対応ができるようにしている。		入居者各々の病院受診等がある為どうしても希望される日と時間が合わず実施することができない場合があり結果としてホーム側の都合と受け止められる時があるが出来るだけ入居者の希望が叶えられるよう通院日と入浴希望時間の調整ができるよう努力している。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各々の生活習慣や過ごし方を尊重して余暇を自由に過ごして頂く様にしています。		食事時間・入浴時間等基本的な事は時間を決めていますが、本人様の体調不良等ある場合は状況に合わせて時間をずらす等の工夫をしています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯物畳み等本人様のできることに応じて手伝いをして頂いています。散歩や買い物希望される時はスタッフと一緒に外出をしています。		ゲーム・作品づくり・カラオケ等ホーム内で楽しめるレクリエーションをしています。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様・家族様と入居時に話し合いをして預り金の中から希望時近所のスーパーへ買い物に行ける金額はお渡ししています。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブ等天候や気温を考慮しながら、本人様の希望時は外出できるようにしています。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人様が家族との外出を希望される場合は家族様に相談してできるだけ希望が叶うよう依頼しています。花見の時期や紅葉狩り等は他の利用者の方と皆で外出できる機会を作っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望される場合は先にご家族の承諾を得て電話をかけられるように支援しています。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居時から家族の方には近い方にはいつでも着ていただくように伝えてます。又多人数で来られる時も多い為居室でゆっくり過ごしていただくよう来客用のテーブルと椅子も用意しています。		どなたにでも明るく挨拶をして、気軽に訪問しやすい雰囲気作りを心がけています。
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全に安心して立ち上がりができるようにベッド柵を設置しているがそれ以外の身体拘束は行っていません。昨年より身体拘束に関しては市配布のパンフレットや研修資料を見ながら話し合いを重ねてスタッフ全員が理解できるよう取り組んでいます。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームでは玄関に鍵をかけることはしていません。無断で外出されようとする利用者様はいらっしゃいますが、ドアにチャイムを設置又当日のスタッフ間で常時利用者様の動向を確認できるようにしています。		外出されようとする利用者様には話を聞いて一緒に同行するようにしています。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入室の際は必ずノックをして了解の下入室するようにしています。常時利用者様の所在を把握するようにしています。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人様の状態に合わせて自己管理できる方はご家族との了解を得て居室で、管理が必要な方は事務所や危険物品入れ(鍵付き)で保管しています。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬管理、確認・食事摂取時の見守り等各利用者の身体状況、精神症状に応じた対応ができるよう事故防止に取り組んでいます。	○	行方不明等が生じた場合を想定して管轄の派出所へ利用者様の写真や特徴を記した物を提出するようにしています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	転倒等による外傷が生じた場合や熱発時の対応等は症状に応じて手当てできるよう訓練している。又救急搬送時の手順についても対応法を習得している。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を作成している。消防署に連絡して避難訓練を実施している。昨年指摘があった備蓄も準備している。	○	昨年より自治区が変更となった為現在自治区の方々とは集会や美化運動に参加して交流を図っている最中で協力を得られるような関係を築いていきたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	各家族には本人様の起こりうるリスクについては既往症等現状の説明してしている。その中で本人らしい生活の送り方を話し合っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個別の各記録のチェック表、摂取状況、バイタルチェック表や顔色等常に観察をし異変時は直ぐにスタッフ全員が速やかに対応できるようにしています。夜勤帯は所長、管理者に連絡し緊急を要する状態であれば救急車の要請をするようにしています。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に貰う処方箋は必ず本人の介護記録に綴じ薬の変更等有った場合には業務日誌に記録しスタッフ全員が用法・用量等把握できるようにしています		服薬管理が必要な方が殆どの為職員全員が責任を持って利用者の服薬確認、副作用等を把握することが必要。変化が見られる場合は速やかに主治医に連絡するようにしています。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を毎日確認。便秘症の方に限らず水分摂取量チェックし水分補給を徹底するようにしている。おやつ等の時間等食堂に利用者様が集まる時間に軽いストレッチやラジオ体操と一緒に参加して頂くよう勧めています。		水分摂取の必要性を説明しても中々理解できず拒否される方も多い為個別に居室訪問してスタッフが一緒に話しをしたりテレビを観ながらお茶を一緒に飲むようにすると飲まれる方も多い。時間を作り御茶を二人分用意して利用者宅訪問をしています。
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立して歯磨きができる方は見守りを行い介助が必要な方は口腔ケア介助をしています。又協力機関である桂川歯科に受診・往診を依頼し定期的に口腔ケア、義歯の調整を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取確認表を作成して毎日の摂取状況が確認できるようにしています。食事メニューは近隣の福祉施設栄養士の協力を得ています。嚥下状態が悪い方は主治医と連携を図り栄養補助食品を取り入れるようにしています。	
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は利用者様・スタッフ全員が受けられるようにしています。感染症に対する予防や対応についてのマニュアルを用意し知識を身につけ実行できるようにしています。	
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食物の消費期限の確認。まな板の生ものと野菜の使い分け食器類の完全乾燥等衛生管理をしています。又細菌の発生しやすい時季は生ものの提供はできるだけ控えるようにしています。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者様と一緒に作成した壁飾りや家族様から頂いた壁掛けを飾って玄関先を明るくしています。玄関外には花壇を作り季節の花々を利用様と一緒に育て水遣りの際には近所の方から花の育て方でアドバイスを受けながら親しく会話ができるようにしています。	ホーム周りは犬の散歩をされる方も多く犬好きの利用者様やスタッフが玄関先で話しをする姿が良く見られます。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やフロアーには季節毎に壁飾りを作成し色塗りやカット等利用者様と一緒にするようにしています。	作品が完成し飾った後は(個々で作った物はサインをもらってます)家族様に本人様が一緒に参加された事を伝えると大変喜ばれ、七夕飾りの時に最近入居された方の家族は字を書かれたことに驚かれていました。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには大きなソファ、座椅子を配置している。食後や相撲の時期等は思い思いの場所に座られ一緒にテレビを観たり談話をされている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に相談して愛用されていた品物を持参していただき落ち着いて過ごせるよう工夫している。又和室と洋室がある為本人様の要望をできるだけ取り入れる事ができるようにしています。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には換気扇が付いており24時間換気ができ空気がよどまないようにしている。室温と外気温との大きな差が生じないように常に温度計をチェックするようにしています。居室の窓を開け空気の入替えやP-トイレ設置している居室には消臭剤等使用しています。		居室のドアの側にエアコンのコントロールパネルが設置されている為ご自分で操作をされて気温の差ができ季節にそぐわない服を着用されている時がある為廊下を通る度にエアコンの温度確認、調節を行っています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・トイレ・廊下・浴室等利用者が普段移動される場所には手摺りを設置しています。		車椅子使用や杖歩行される方、歩行不安定な方も安心して移動できるよう通行の妨げになるものは置かないようにしています。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自宅で生活されてきた事(家事等)又できることを発見しADLに合わせてできる事はして頂くようにしている。困惑されている状況にある問いはスタッフが声掛け行い一緒に作業ができるようにしています。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室から中庭に出て草取りや水遣りができるようにしています。バーベキューや花火等をして楽しく過ごせるよう有効活用しています。		居室やフロアから中庭や裏庭が見えるようになっている為季節の花々を植え季節感を感じて頂く様にしています。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

家庭的な雰囲気では利用者様とスタッフは家族という気持ちを忘れず毎日を楽しく生活していただける様取り組んでいます。本当の家族にはなれませんが、もし自分の親だったら・・・子供や兄弟だったら・・・どう支援したら良いのかを忘れず介護していくように指導しています。退所後や入院後もホームでできる支援はさせていただき本人様とご家族の不安解消に少しでも役に立つ事が出来、安心して過ごす事ができるよう支援しています。